



第二中学校学校だより

2月29日 (木曜日)

2023(令和5)年度版

編集 発行 六ヶ所村立第二中学校 発行責任者 天間朋昭 〒039-3215 青森県上北郡六ヶ所村 大字倉内字湯沢112-1 電話 0175-75-3141

# 六ヶ所村 文化賞 教育奨励賞 スポーツ賞 授与式

2月16日(金) 六ヶ所村文化交流プラザスワンニ大会議室において、六ヶ所村文化賞、教育奨励賞、スポーツ賞の授与式が行われ、本校からも代表生徒が参加しました。

文化賞は、六ヶ所村における文化の向上発展に寄与し、特に顕著な功績を上げた個人及び団体に贈られるもので、倉内子ども神楽育成会が受賞しました。代表として、倉内子ども神楽育成会の相内良夫会長と本校の坂本美緒さんが登壇し、表彰状を受け取りました。



教育奨励賞は、国内、県内

に広く知られている大会において優秀な成績を収めた個人及び団体に贈られるもので、「第4回あおもり三行詩コンクール中学校の部」で推賞を受賞した藤谷しずくさんが受賞しました。

スポーツ賞は東北地区大会、県大会で優秀な成績を収めた個人及び団体に贈られるものです。本校では、優秀選手賞として個人2名と団体(野球部)が、また、スポーツ奨励賞として個人5名が受賞しました。

### ■文化賞

倉内子ども神楽育成会

### ■教育奨励賞

藤谷しずくさん(2年)

### ■優秀選手賞(個人)

木村華恋さん(3年)

小泉心優さん(3年)

### ■優秀選手賞(団体)

横浜中・六ヶ所一中・六ヶ所二中野球部

川村莉空さん(2年)

高屋敷煌さん(2年)

松橋大和さん(2年) 番地亮太さん(1年) 三浦輝士さん(1年) 三浦鯉空さん(1年) 吉田瑠依さん(1年)

### ■スポーツ奨励賞(個人)

(陸上競技) 柳田祐月さん(3年) 中嶋奏輔さん(2年) 田村涼華さん(2年) 福岡 凜さん(1年)

### (バレーボール)

吉原碧彩さん(3年)

(「東奥日報」2月21日版に紹介されました。)

### ■坂本美緒さん(3年)

倉内子ども神楽育成会は、倉内神楽保存会の指導のもと、練習に励んできました。私は中学からおはやし担当として練習をしてきました。師匠から教わったことを生かして、今では保存会として正月に地区をまわる門打や民俗芸能発表会で活動しています。これからも、地域に貢献できるように頑張っていきたいと思えます。

## 原子力災害避難訓練

1月30日、全校生徒を対象に原子力災害を想定した避難訓練を実施しました。実施内容は、「ほげんだより」No.16でもお知らせしていますが、当日は六ヶ所村役場原子力対策課の番地氏、秋戸氏を講師にお招きし、他の災害との違いや、具体的な避難について説明をしていただきました。

避難訓練では、避難指示の放送が入ると、全校生徒が「お

は・し・も」(おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない)の原則を守り、速やかに講堂(体育館)への退避をしました。

在校中は、このように学校から指示が出ますが、自宅に一人であったり、登校途中であったら、村役場の防災放送等を聞いて、自分の確に判断して行動しなければいけません。特に、原子力災害は、地震や火事などと違い、目に見えたり、聞こえたり、においがしたりするものではないので、災害からの確に避難するためにも、放射線に対する正しい知識が必要であることを改めて確認できた時間となりました。

屋内退避の指示が出た場合、屋内に入ると、全ての窓やカーテンを閉めましょう。

換気扇を止めるなど外部との換気を遮断しましょう。

(参照「防災・安全の手引」二訂版)

劇作家、演出家で兵庫県立芸術文化観光専門職大学学長を務める平田オリザ氏の講演会が本校講堂(体育館)で行われました。

この講演会は六ヶ所村教育委員会が主催するもので、「22世紀を見る君たちへ」これからの生きるための「練習問題」と題して、六ヶ所村内の泊中学校、第一中学校の1、2年生と本校全学年の生徒が一同に集まって実施されました。

平田氏の講演の内容は次のとおりです。

芸術文化観光専門職大学(学長平田オリザ氏)をはじめ、大学で学ぶ学問は、自然

科学、社会科学、人文科学(人文科学)に分けられます。自然科学は、だれが実験をしても結果は同じという分野ですが、文学や芸術などの人文科学(人文科学)は、1回しか起こらないことを扱います。そして、これらをバランスよく学ぶことが大切です。

## 平田オリザ氏講演会

今後一層重要になってきます。そのエンパシーを身に付けるのに、「他者」を演じる演劇は有効です。

よく、「本当の自分を見つけないといけない」という話を聞きますが、本当でしょうか。人間は「無邪気な自分」がいたり、「頼られる自分」がいたり、一方で「他の人に甘える自分」がいたり色々な役割をもっています。その役割を演じることは悪いことではありません。大人は役割を上手に使っているわけではなく、それは嘘を演じているわけではなく、社会性を身に付けているということです。この演じ分けを覚えてい



生徒の中に入り、気さくに話しかけながら、講演する平田オリザ氏

くのが学生時代と言えます。(以上講演会の概要です。)

生徒にとつて難しい内容もありましたが、平田氏が生徒の席まで行って、話しかけるなど楽しく興味深い時間となりました。大学では、2時間近く連続で講義をしているとのこと、とてもエネルギーシユな講演会でした。

## 3月のおもな行事

- 3月 1日(金) 1、2年期末テスト
- 3月 4日(月) 県立高校受検前日指導
- 3月 5日(火) 県立高校選抜検査日
- 3月 8日(金) 卒業証書授与式予行、3年生を送る会
- 3月 9日(土) 第28回卒業証書授与式
- 3月11日(月) 交換休業日
- 3月12日(金) ~年度末5時間授業
- 3月25日(月) 1、2年CRT検査
- 3月26日(火) 修了式、離任式
- 3月27日(水) ~学年末休業(春休み)

## 2月の大会・検定

- 実用英語技能検定
  - 4級合格 高村勇人さん 中嶋奏輔さん
- 日本漢字能力検定
  - 3級合格 高村 銀さん 高村 勇人さん 田村涼華さん 中嶋奏輔さん
  - 4級合格

# 第4回保護者参観日

2月20日、第4回保護者参観日が実施されました。

参観授業は、1学年が理科、2学年が立志式、3学年が数学でした。このうち、講堂(体育館)で行われた立志式では、生徒一人一人が「立志の誓い」として漢字1文字に込められた自分の目標や将来の夢について発表をし、記念合



立志式で記念合唱『パテルギウス』を披露する2年生

## 校長式辞 (概要)

保護者の皆さま、お忙しい中、ご来校くださりありがとうございます。そして、2年生のみなさん、一人一人の「これからの生き方」について、立派な発表をありがとうございました。

さて、今日行った「立志式」とは何かを考えたことがありませんか。様々な本には、奈良時代からはじまる「元服」に由来していると書かれています。元服とは、「11歳から16歳ころに行われた、社会から成人として認められるための

儀式」などと説明されることが多いようです。そこで、一つ疑問が出てきます。成人として社会から認められる儀式といえ、現在では、成人式が考えられます。それでは、元服と立志式の関係はどうなのでしょう。共通点は、「11歳から16歳ころに行われた」という点です。11歳から16歳で大人?と驚くかもしれませ

が、平均寿命が30代前後で推移していた頃のことを考えれば、社会から早く大人になることを要求されていたことがうかがえます。戦国時代の例になりますが、織田信長は13歳、徳川家康は14歳で元服をし、伊達政宗は11歳でした。その2年後に結婚、さらに2年後には戦に出陣しています。そう考えると、生まれてから14年くらいのみなさんと同

じ歳の人たちが、当時どのようであったのかに思いをさせ、同じ歳の「今」を生きる自分でできることは何だろうか、と改めて考える機会ととらえることができるのではないのでしょうか。今日は、みなさんから「これからの生き方」について発表してもらいました。

「生き方」とは物事の「捉え方」や「考え方」とも言えます。「ありがたい」という言葉は、有ることが難しい「有難い」から出てきた言葉であることは知っているとします。私たちの周りの飲み水や食べ物、暖房の効いた建物、家族...それを「当たり前」と考えるか「ありがたい」と考えるかで生き方は変わってくると思えます。この日の「ありがたい」の気持ちを忘れないでください。(一部省略しています)

## 進路活動研究会

2月7日、今年度の進路活動研究会が行われました。この事業は、青森県立六ヶ所高等学校の3年生が来校し、本校生徒に、進路選択や高校での学びについて講話をするというものです。今回は、本校卒業生の石岡新さん、小泉花和さん、橋本陽向子さん、浜飯普司さんの4名が来校し、プレゼンテーションソフトを使いながら、自分の体験に基づいた説得力のある話をしてくれました。

高等学校での生活については、「学校以外の人と接する機会があります。」「先生のサポートが手厚く、作文が苦手だと相談すると助けてくれました。」「村と連携した行事があり、アットホームな学校だったので、入ってよかったと思います。」「などの説明がありました。また、高校生の皆さんから「自分の努力で将来は変わります。何事にも積極的に行動することが大切です。」「自分の進路決定には、家族の支えがあったので、家族に感謝して勉強をすることが大切です。」「ありがとうございます。伝える方がいいと思います。」「などたくさんアドバイスをもらいました。

## 高校入試

県内の私立高等学校の入学選抜検査が2月6日に終了し、14日に合格発表がありました。県立高等学校は、来月5日が入学選抜検査日になっています。選抜検査日に向けて、各教科担当の先生からのメッセージを紹介いたします。

【国語】入試直前は、漢字練習や問題集よりも、「文章をじっくり読む」ことに力を入れてください。今まで取り組んだ過去問や入試対策テストに出題された論説文をじっくり読んでください。

後の問題まで目を通して、チャレンジしやすいものから挑戦しましょう。

【数学】県立入試に向けて問1問題や個人に合わせた大問強化を行いました。非常によい雰囲気での授業に臨んでいました。そんな皆さんの当日の頑張りにも期待しています。

【社会】全体をみて、得意なところから始める。選択問題は必ず記入する。終わりのチャイムが鳴るまで時間いっぱい使って考えること。「天は自ら助くるものを助く」

## 学校評議員会

2月15日、相内知昭氏、佐藤都美子氏、橋本勝哉氏、吉田裕悦氏の4名の学校評議員をお招きし、第二中学校学校評議員会が開催されました。

学校評議員制度は、学校がご家庭や地域と連携・協力して、子どもたちの健やかな成長を図っていくために位置付けられた制度です。

今年度2回目となる評議員会では、学校側から、2学期以降の生徒の活動や、学校アンケートの結果等の説明をしました。また、本校で推進しているICTを活用した授業について、実際に電子黒板を使って説明をしました。

学校アンケートや学校評議員の皆様からいただいた貴重なご意見やご感想を、今後の教育活動につなげてまいります。

## 今後の学校の取組

①学校の取組をより一層、ご家庭や地域に情報発信し、共に子どもたちの健やかな成長を見守ります。

②生徒が安全・安心して生活できるような、事故防止や生徒が悩みごとなどを相談しやすい雰囲気づくりに努めます。

③他者と交流したり、タブレット等を適切に活用した学習の推進を図ります。また、授業をユニバーサルデザインの視点でも直し、すべての生徒に分かりやすく、学びやすい授業づくりの推進に努めます。



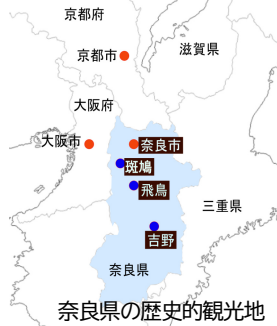
JR法隆寺駅。お寺の名前がそのまま駅名になっています。駅舎は城のように見えます。



五重塔。西院伽藍にある金堂、中門、回廊とともに現存する最古の木造建築。



夢殿。本尊は聖徳太子の等身大と伝わる「救世観音菩薩立像」。春と秋の期間限定で開扉されます。



奈良県の歴史的観光地

## 日本の文化財⑪斑鳩

西院伽藍の中心が金堂や五重塔だとすると、東院伽藍の中心となつているのが、夢殿です。夢殿は、聖徳太子を供養する堂として、太子の没後に建てられました。はじめは「仏殿」と呼ばれていたようですが、平安時代になり「夢殿」と呼ばれるようになったそうです。これ

は、かつて太子が夢の中で、金色の人に出会ったという言い伝えに由来します。東院がある場所は、かつて聖徳太子が斑鳩宮を造営し、住んだ場所と言われています。法隆寺から、約10分くらい歩くと、藤ノ木古墳があります。直径が50mの円墳であり、当時の文化の粋を凝らした副葬品が見つかっています。法隆寺を訪れたら、足を運んでもらいたい文化財の一つです。

は、かつて太子が夢の中で、金色の人に出会ったという言い伝えに由来します。東院がある場所は、かつて聖徳太子が斑鳩宮を造営し、住んだ場所と言われています。法隆寺から、約10分くらい歩くと、藤ノ木古墳があります。直径が50mの円墳であり、当時の文化の粋を凝らした副葬品が見つかっています。法隆寺を訪れたら、足を運んでもらいたい文化財の一つです。

は、かつて太子が夢の中で、金色の人に出会ったという言い伝えに由来します。東院がある場所は、かつて聖徳太子が斑鳩宮を造営し、住んだ場所と言われています。法隆寺から、約10分くらい歩くと、藤ノ木古墳があります。直径が50mの円墳であり、当時の文化の粋を凝らした副葬品が見つかっています。法隆寺を訪れたら、足を運んでもらいたい文化財の一つです。

は、かつて太子が夢の中で、金色の人に出会ったという言い伝えに由来します。東院がある場所は、かつて聖徳太子が斑鳩宮を造営し、住んだ場所と言われています。法隆寺から、約10分くらい歩くと、藤ノ木古墳があります。直径が50mの円墳であり、当時の文化の粋を凝らした副葬品が見つかっています。法隆寺を訪れたら、足を運んでもらいたい文化財の一つです。